

## ■ 概況

4/20～4/26のNYMEX・WTI先物市場は74.30～78.76ドルの範囲で推移した。

4月27日は、米国株式市場が上昇するなど、過度の景気後退懸念が薄らぎ、3日ぶりに反発した。6月物は前日比0.46ドル高の74.76ドルで取引を終えた。

週末28日は、連日の株式市場の活況に加え、安値拾いの買いもあって、続伸した。6月限は2.02ドル高の76.78ドル。

週明け5月1日は、中国の経済指標の低調さ、翌日開催の米連邦公開市場委員会（FOMC）を前に利上げ観測から、3営業日ぶりに反落した。6月物は1.12ドル安の75.66ドル。

2日は、前日の米銀破綻を受け、金融システム不安が再燃、大幅続落した。6月物は前日比4.00ドル安の71.66ドル。

3日は、FOMCが0.25%の利上げを決定、景気後退懸念が高まるとともに、米石油在庫統計で原油は取り崩しになったものの製品は積み増しとなり、3日続落、節目の70ドルを割った。6月物終値は、前日比3.06ドル安の68.60ドル。

4日は、前日の米国に続き、欧州中央銀行（ECB）も利上げ実施、先行き景気後退懸念の高まりで、4日続落した。6月物終値は前日比0.04ドル安の68.56ドル。

5日は、米国株式が上昇、景気後退感が和らぎ、5日ぶりに大幅反発、70ドル台を回復した。安値拾い、OPECプラスの6月会合における追加減産観測も値上がり要因となった。6月物終値は前日比2.78ドル高の71.34ドル。

週明け8日は、堅調な米国の雇用統計の発表で、過度の景気後退懸念が薄らぎ、続伸した。為替市場のドル安、5月からのOPECプラス主要国の追加減産も値上がり要因となった。6月物終値は前日比1.82ドル高の73.16ドル。

9日は、前日発表の中国の4月の貿易統計が軟調であったことから、売りが優勢だったが、米国政府が戦略備蓄（SPR）の補充を検討中との観測が流れ、買い戻され、6月物終値は前日比0.55ドル高の73.71ドル。

10日は、米国の4月の消費者物価指数が前年同月比4.9%増と市場予想通りで、金利引き上げ継続観測が高まり、反落した。6月物終値は前日比1.15ドル安の72.56ドル。米国の原油在庫は市場予想に反し積み増しで値下がり要因。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（6月渡し）は、4月20日～26日の間、80.50～82.40ドルの範囲で推移した。4月27日78.10ドル、28日78.80ドル、5月1日80.00ドル、2日79.10ドル、8日75.40ドル、9日76.10ドル、10日76.50ドルで推移した。

為替は、4月20日～26日の間、133.80～134.92円の範囲で推移した。4月27日133.72円、28日134.13円、5月1日136.84円、2日137.67円、5月8日135.14円、9日135.33円、10日135.15円で推移した。

財務省が5月10日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、4月中旬の原油輸入平均CIF価格は、68,873円で、前旬比864円安、ドル建て83.05ドルで前旬比1.05ドル安、為替レートは1ドル/131.85円だった。

そのような中で、5月8日時点の価格は、ガソリンが前週比0.3円の値下がり、軽油も同0.2円の値下がり、灯油は同2円の値下がり（18リットルベース）であった。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油も3週連続の値下がりとなった。ガソリンの全国平均価格は167.8円であった。また、次週も燃料油価格激変緩和対策が発動され、補助金の支給額は14.1円となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/30～5/6	2,943 ▲10	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	79.4 ▲0.3	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	5/6	11,142 ▼-154	▲ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	5/8	73.95 ▼-4.09	▼-32.8
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	5/8	73.16 ▼-2.50	▼-29.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月中旬	83.05 ▼-1.05	▼-25.13
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	68,873 ▼-864	▼-14,694
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	131.85 ▼-0.01	▼-9.04
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/8	136.14 ▲1.70	▼-4.36

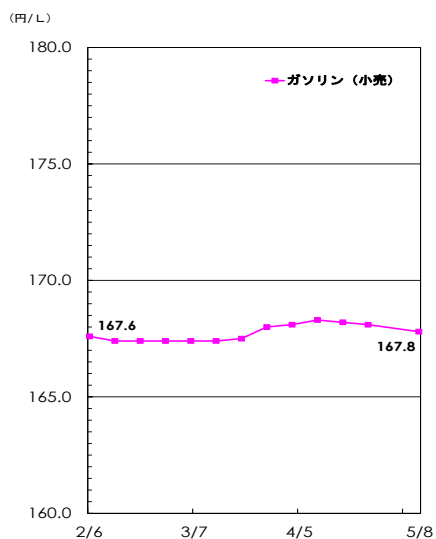
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/30 ~ 5/6	868 ▼ -21 ▲	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	872 ▲ 57 ▲	▲ -	
	輸出	"	61 ▲ 13 ▲	▲ -	
	在庫	5/6	1,622 ▼ -66 ▼	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/2 ~ 5/8	73.4 ▼ -1.2 ▼	▼ -1.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/2 ~ 5/8	73.0 ➡ 0.0 ▲	▲ 0.5
		(TOCOM/中部)	5/8	75.4 ➡ 0.0 ▼	▼ -0.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/8	167.8 ▼ -0.3 ▼	▼ -3.3	

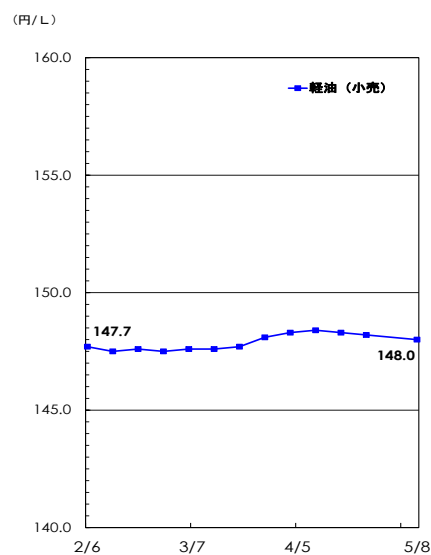
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

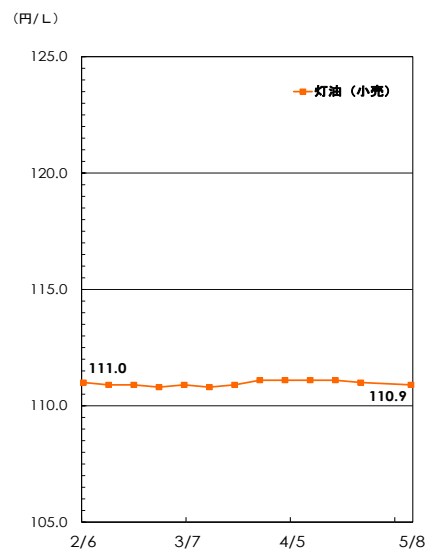
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/30 ~ 5/6	670 ▲ 99 ▼	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	396 ▼ -111 ▲	▲ -	
	輸出	"	122 ▲ 33 ▲	▲ -	
	在庫	5/6	1,489 ▲ 151 ▲	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/2 ~ 5/8	73.6 ▼ -1.5 ▼	▼ -2.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/2 ~ 5/8	76.9 ▼ -0.3 ▼	▼ -14.3
		(TOCOM/中部)	5/8	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/8	148.0 ▼ -0.2 ▼	▼ -3.0	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/30 ~ 5/6	164 ▲ 20 ▼	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	68 ▼ -64 ➡	➡ -	
	輸出	"	6 ▼ -18 ▲	▲ -	
	在庫	5/6	1,352 ▲ 89 ▲	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/2 ~ 5/8	73.8 ▼ -1.5 ▼	▼ -1.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/2 ~ 5/8	75.0 ➡ 0.0 ▼	▼ -1.5
		(TOCOM/中部)	5/8	76.3 ➡ 0.0 ▲	▲ 0.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/8	110.9 ▼ -0.1 ▼	▼ -2.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(4月27日～5月10日)のWTI石油先物市場は、27日の74.76ドルで始まったが、週明け1日から景気後退懸念・金融システム不安から3日続落、節目の70ドルを割り、3月下旬の水準まで低下した。その後は、景気懸念も後退、3日続騰もあり、5日には70ドルを回復し、5月10日の終値は72.56ドルであった。

5月3日発表の28日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計によると、原油在庫は前週比150万バレル減と、市場予想(110万バレル減)を上回った。ガソリン在庫は170万バレル増と市場予想(110万バレル減)に反する積み増し。また、5月10日発表の5日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計によると、原油在庫は前週比300万バレル増と、市場予想(90万バレル減)に反する積み増し。ガソリン在庫は320万バレル減と市

場予想を上回る取り崩し。

EIAによると、5月1日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比5.6セント値下がりの1ガロン3.600ドル(130.9円/ℓ)と2週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比5.9セント値下がりの1ガロン4.018ドル(145.1円/ℓ)と2週連続の値下がり。5月8日時点で、ガソリンの小売価格は前週比6.7セント値下がりの1ガロン3.533ドル(127.2円/ℓ)と3週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は前週比9.6セント値下がりの1ガロン3.922ドル(141.2円/ℓ)と3週連続の値下がり。

ペーカーヒューズ社によると、4月28日時点で、米国内稼働石油掘削装置は、前週比横ばいの591基。5月5日時点で、米国内稼働石油掘削装置は、前週比3基減の588基と3週ぶりの減少。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年4月30日～5月6日に休止したトッパー能力は29.5万バレル/日で、前週に対して13.6万バレル/日増加した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は294.3万klと、前週に比べ1.0万kl増加。前年に対しては24.2万klの減少。トッパー稼働率は79.4%と前週に対して0.3ポイントの増加、前年に対しては3.4ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、A重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/2.3%減、ジェット/3.5%増、灯油/13.6%増、軽油/17.4%増、A重油/14.1%減、C重油/31.8%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は12.2万kl(前週比3.3万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリン、ジェットが増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、軽油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は87.2万kl(対前週7.0%増)と2週振りに増加した。ジェット5.9万kl(対前週82.6%増)、灯油6.8万kl(対前週48.3%減)、軽油39.6万

kl(対前週21.8%減)、A重油6.9万kl(対前週63.7%減)、C重油8.5万kl(対前週29.2%減)。

(単位:千kl)

	今週 (4/30 ~ 5/6)	前週 (4/23 ~ 4/29)	前週比
ガソリン	872	815	▲ 57 (7%)
ジェット燃料	59	32	▲ 27 (84%)
灯油	68	132	▼ -64 (-48%)
軽油	396	507	▼ -111 (-22%)
A重油	69	189	▼ -120 (-63%)
C重油	85	120	▼ -35 (-29%)
合計	1,549	1,795	▼ -246 (-14%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月6日時点の在庫はガソリンが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、A重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは162.2万kl、前週差6.6万kl減。前年に対しては5.4万kl少ない。

灯油は135.2万kl、前週差8.9万kl増。前年に対しては6.3万kl多い。

軽油は148.9万kl、前週差15.1万kl増。前年に対しては0.3万kl多い。

A重油は73.8万kl、前週差5.0万kl増。前年に対しては1.3万kl少ない。

C重油は188.3万kl、前週差11.4万kl増。前年に対しては14.5万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (5/6)	前週 (4/29)	前週比
ガソリン	1,622	1,688	▼ -66 (-4%)
ジェット燃料	870	821	▲ 49 (6%)
灯油	1,352	1,263	▲ 89 (7%)
軽油	1,489	1,338	▲ 151 (11%)
A重油	738	688	▲ 50 (7%)
C重油	1,883	1,769	▲ 114 (6%)
合計	7,954	7,567	▲ 387 (5.1%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

4月25日～5月1日のドル建て中東原油価格は値下がりし、為替レートの円安がわずかにこれを相殺したが、元売会社の円建て原油コストは、2.0円値下げたものと見られる。4/27～5/10の補助金は、16.8円だった。

また、5月2日～5月8日のドル建て中東原油価格は値下がりし、為替レートの円安がこれを相殺したが、元売会社の円

建て原油コストは、2.5円値下がりしたものと見られる。上記コストに先週の補助金額16.8円を加え、今週の補助金14.1円を差し引いた、5/11～5/17の実質的な元売会社の卸価格は0.2円の値上げとなった模様。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

5月2日～8日の製品スポット市況は、4月25日～5月1日平均と比べ、ガソリンと灯油の先物取引の横ばいを除き、他の取引・油種で値下がりがした。

直近週(5/2～5/8)の陸上スポット価格平均値は、前週(4/25～5/1)比で、ガソリンは1.2円の値下がり、灯油は1.5円の値下がり、軽油は1.5円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(5/2～5/1)に、前週(4/25～5/1)比で、ガソリンは0.9円の値下がり、灯油は0.2円の値下がり、軽油は1.3円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油も横ばい、軽油は0.3円の値下がりだった。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (5/2～5/8)	前週 (4/25～5/1)	前週比
	レギュラー	73.4	74.6
灯油	73.8	75.3	▼ -1.5
軽油	73.6	75.1	▼ -1.5

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値 平均]	今週 (5/2～5/8)	前週 (4/25～5/1)	前週比
	レギュラー	73.0	73.0
灯油	75.0	75.0	➡ 0.0
軽油	76.9	77.2	▼ -0.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/2～5/8実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -1.2	➡ 0.0	▼ -0.6
灯油	▼ -1.5	➡ 0.0	▼ -0.8
軽油	▼ -1.5	▼ -0.3	▼ -0.9
A重油	▼ -1.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

5月8日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円安の167.8円、軽油も0.2円安の148.0円、灯油は18%ベースで2円安の110.9円(1%ベースでは0.1円安の110.9円)。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油は3週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは13都県、横ばいは6県、値下がり28道府県だった。全国最安値は宮城県と徳島県の161.4円、その次は岡山県の162.1円であった。他方、最高値は長崎県の177.4円だった。最も値上がりしたのは東京都(前週比0.6円高)、横ばいは宮城県など6県、最も値下がりしたのは徳島県(同2.5円安)だった。

次回調査時(5/15)のガソリンの小売価格は、横ばいもしくは小幅な値動きが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (5/8)	前週 (4/24)	前週比	直近高値
レギュラー	167.8	168.1	▼ -0.3	08/8/4 185.1
灯油	110.9	111.0	▼ -0.1	08/8/11 132.1
軽油	148.0	148.2	▼ -0.2	08/8/4 167.4

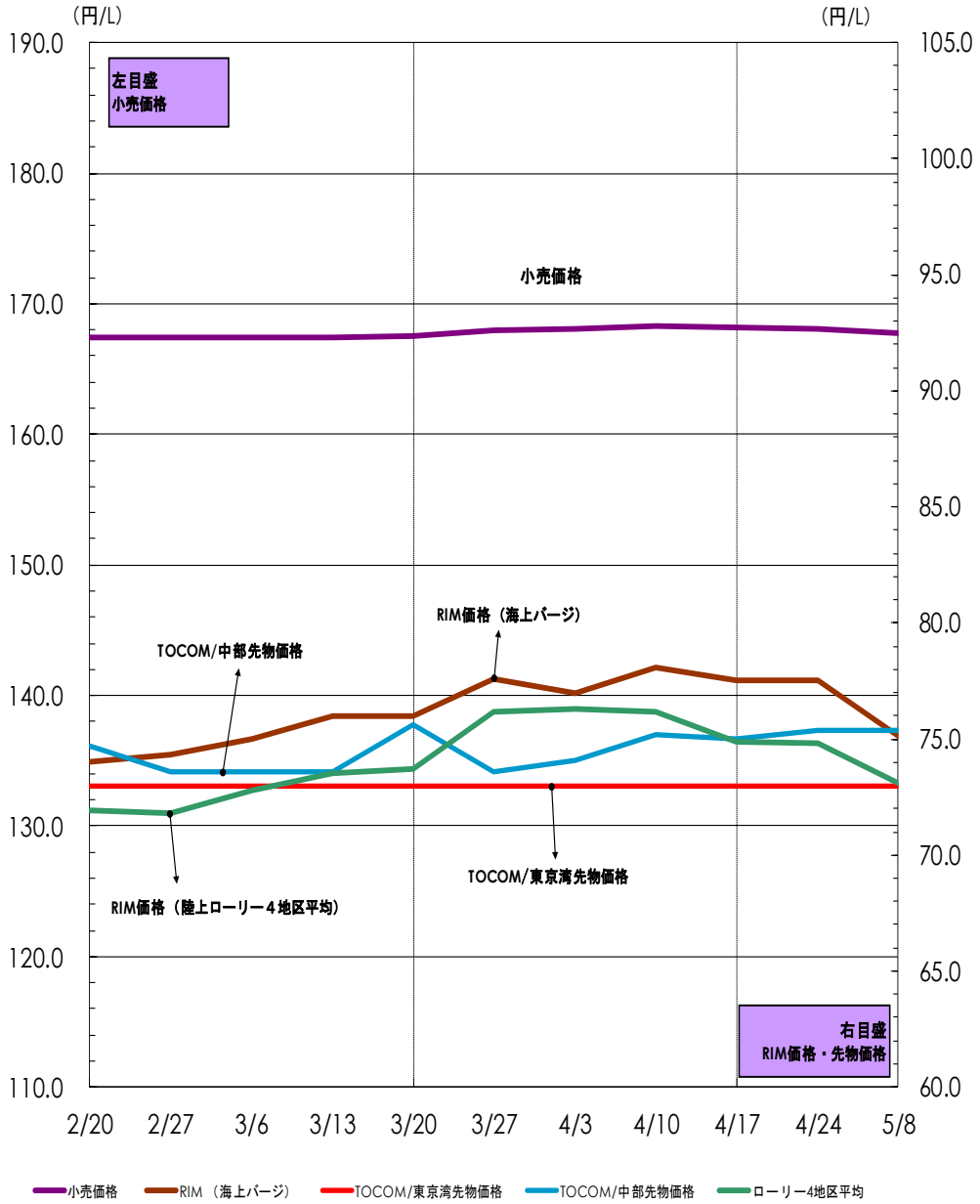
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2023/2/20 ~ 2023/5/8)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2023第6号)の公表は、5/19(金)14:00です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPIに掲載)。